

伊豆大島 ボランティア part 3

11月29日 22時発夜行大型船で出発
11月30日 6:00伊豆大島到着
7:00大島牛乳工場・牧場見学
8:30ボランティアセンター受付
12:00午前の部終了
昼食後 授業開始



今回もボランティアセンターを通して、ボランティアを行いました。
生理学概論(生命科学の1年生の授業)の3時間分(室内・学外選択制)を島で行うことになりました。授業自体は、30日昼前に伊豆大島に到着し開始の予定でしたが、学生たちに呼びかけたところ、全員がボランティア活動を行いたいとのことで、災害復旧ボランティアを午前中に行い午後から授業を行うことになりました。学生27人、TA、教員を合わせて30人。男性チーム(15人)と女性チーム(15人)に分かれて作業に入りました。



【男性チーム】

大金沢沿いで壊滅的な被害を受けたガソリンスタンドなどを経営する商店からの依頼で、従業員の方々の指示を頂きながら貨車を利用した倉庫4戸の泥出しと清掃を行いました。倉庫は被災時きちんと閉められていたにもかかわらず、強い流れとともに多くの土砂が中に入り込み、深い所で5-10cm程度堆積し堅くなっていました。まず、倉庫に入っている物品を運び出しました。次に敷き詰められたパレットを運び出そうとしますが固まった土砂に埋もれ、また水を吸っていて非常に重くなっていました。



物が無くなった床の土砂を少しずつ崩しながら平スコップでかき出し、デッキブラシで細かい火山灰を集め、最後に箒で隅まで清掃して終了。激しく壊れた家々、大きく破損した自動車が横に置かれた場所での作業で、最後に喪服姿で戻られた商店主からご挨拶をいただき、皆それぞれに想像を絶する災害の恐怖を知り、被災者の気持ちに思いを巡らせていました。



予想以上に早く作業が終了したので、ボランティアセンターの指示を受けて女性15名が活動中の椿園に移動。女性陣は別記の通り土砂をかぶった食器の清掃、片付けなどを行っていましたが、男性は、建物周辺、庭、植



木周りの土砂の撤去作業に加わりました。庭の土砂を 10cm ほど撤去すると、美しく敷き詰められていたであろう芝が見えてきました。これまでのボランティアが撤去した土砂の山は 4-5m にも及んでいますが、入り込んだ土砂を全部撤去するにはまだまだ至っていません。



【女性チーム】

ホテル椿園という老舗旅館に行きました。テレビで救出模様が報道されていた場所です。ホテルには、土砂がたくさん入り込み、連日土砂撤去作業も入っています。土砂に埋まった食器類を以前のボランティアの方が分類されていたので、私たちは、その食器を水洗いし土砂をきれいに落とし、アルコール消毒してきれいに箱詰めします。



水道も未だに止まっているので、まず水を運ぶ作業からです。すでにボランティアの方が設置して下さった水洗い場に水をいれます。25リットルタンクで運ぶのですが、2人で持ってもふらついたり、1人で軽々運ぶ人もいました。水をシンクにはり、6人でカレー皿、小鉢、大皿などの土砂を丁寧に除去します。細かいスジの入った食器は、溝に土砂が入り込んでいるので、ブラシなどを使いごしごし落とします。次に食器をふきんで拭き、アルコール



消毒をして、またきれいなふきんで拭きます。

次に室内の作業場に入り、割れないように梱包して、段ボールに詰め込みます。



食堂に土砂が入ったものの土砂に埋もれなかった食器類は、土や埃を除去し、アルコール消毒をして、段ボールに梱包します。

ずっと水を使用しているので、ゴム手袋をしていても、水が入ってしまい、冷たい作業でした。



休憩時間に女将さんが、災害時の状況を話して下さいました。椿園に土砂が入ったものの、お客さん従業員全員の無事が確認できたこと。みんなで身を寄せていると、椿園より山側の神達地区に住む男性が子どもを背負ってきて、奥さんがまだ土砂の中にいて、椿園に誰もいなかったら、奥さんはここで死ぬつもりだと言っているという。こどもも土砂に埋まっていて助けたが、大雨で子どもだけでも助かって欲しいということだ。こどもを椿園に預け、椿園の宿泊客の方も応援して奥さんを助けることができた。椿園の近所の至る所で、救出劇がくりひろげられていた話。朝になるまで、こんな状況になっているとは、思いもよらなかった話。災害の生の声をきかせていただきました。

ボランティアセンターで、牛すじのおいしいスープをいただいて、午後からは、授業が始まりました。